

FRP漁船のリサイクル促進

現 状

課 題 ・ 対 策

- 1 廃船処理費用が負担となり、適正に処理されず漁港・港湾に放置されている
漁船の老朽化が進み、今後大量の廃船処理が必要となると想定される



高知県における海面漁船の船齢別隻数 (R3.12.31現在)

- 2 漁港における沈廃船(放置船含む)の隻数887隻 (R3年度末見込)
廃船の処理を行っても、新規に沈廃船(放置船含む)が確認され処理が追いつかない

年度	H27以前	H28	H29	H30	R元	R2	R3	計
処理隻数	292	66	46	22	87	67	162	742
新規確認数	193	72	68	4	359	92	181	969
未処理隻数	561	567	589	571	843	868	887	—

高知県内の漁港における沈廃船処理の状況(単位:隻)

- 3 「FRP船リサイクルシステム」の利用が進んでいない

年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	計
解 轍	92	104	99	130	115	136	105	103	125	91	1,100
リサイクル	4	0	24	21	14	40	18	18	9	7	155 (14.1%)

※解轍:漁船登録抹消の際に船舶を解体して処分すると届け出た件数
※リサイクル:「FRP船リサイクルシステム」により処理した件数(プレジャーボート含む)

高知県における「FRP船リサイクルシステム」による処理及び漁船の解轍状況(単位:隻)

FRP(繊維強化プラスチック)漁船のリサイクル促進の必要性

- ・放置された廃船の増加により、**漁業活動に支障をきたす**とともに、漁村の**景観・生活環境が悪化**
- ・**南海トラフ地震発生時**には、漁港背後の**集落への二次被害**や、漁港・漁村の**災害復興の妨げになる**ことが懸念
- ・**漁業経営が極めて厳しい中で、廃船処理費用が漁業者にとって大きな負担**となっており、**処理を適切に行うことが困難**な状況

①「FRP船リサイクルシステム」の利用しやすい制度への見直し

《課題》

- ・リサイクル料金に加えて運搬料や清掃費等が必要で費用が高額となる
- ・指定引取場所が高知市内1カ所しかない(遠隔地では運搬料が高額)
- ・破碎した船の受入れができない(運搬効率が悪い)



- **指定引取場所の拡充**
- **破碎したFRP船の受入れ**

②FRP漁船のリサイクルに係る法整備と、処理費用の預託・積立制度等の構築

《課題》

- ・リサイクルについての法的位置付けがない
- ・廃業時に高額の処理費用を負担することは厳しい



- **自動車や家電製品のような個別リサイクル法の整備**
- **購入時等に処理費用を負担する預託・積立制度等の構築**

③放置船の処理加速化のための支援制度の拡充

《課題》

- ・現在放置されている船の処理の加速化が必要
- ・既存制度は1事業(1漁船)当たりに必要な事業規模が大きく、採択のハードルが高い



- **各県の実情や事業規模を踏まえた
廃船処理を支援する制度の拡充(採択要件の緩和)**

水産庁事業:農山漁村地域整備交付金(水産物供給基盤整備事業)等
要件:計画事業費が1事業(1漁船)につき、
都道府県5千万円以上、市町村等1千万円以上

政 策 提 言

- ① 「FRP船リサイクルシステム」について、指定引取場所の拡充や破碎したFRP船の受入れなどによる、利用しやすい制度への見直しを提言します。
- ② FRP漁船のリサイクルに係る法整備及び処理費用の預託・積立制度等の構築を提言します。
- ③ 現在放置されている船の処理を加速化するために、廃船処理を支援する制度の拡充を提言します。